

巻 頭 言



石川県知事 馳 浩

石川の特色を活かした国際交流の推進と 県民が安心して暮らせる 多文化共生の社会づくり

石川県の新たな時代を切り拓く羅針盤として、本年秋に策定した『石川県成長戦略』では、「世界に開かれた国際交流の推進」及び「誰もが心豊かに安心して暮らせる多様性を認め合う社会づくり」を施策の柱として掲げ、本県の特色を活かした国際交流を進めるとともに、外国人と日本人がともに生き生きと安心して暮らせる社会づくりを推進することとしています。

本県は、豊かな文化や歴史、自然を有するとともに、人口あたりの国際交流に係るホームステイホストファミリー数が全国1位となっています。

こうした特徴も活かし、県では、海外の大学生等がホームステイをしながら日本語研修や文化体験を行う、本県独自の「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム（通称：IJSP）」を実施しており、これまでに27か国・地域から6,500人を超える研修生を受け入れ、草の根の国際交流や石川の魅力発信に取り組んでいます。

本年8月には、石川県の友好交流地域である韓国・全羅北道を訪問し、2025年の大阪・関西万博に向けて、両地域の国際文化交流を一層推進していくことで合意もしたところです。

また、石川県の外国人住民数は、令和4年末時点で、過去最多の16,598人となっています。

外国人住民の皆さんが、地域での生活に馴染み、安心して暮らすためには、地域において、日本語を学べる環境を整備することや日本人住民との相互理解を深めることが重要です。

県としても、市町など地域の日本語教室に加え、オンラインでの日本語教室を新たに実施するとともに、市町が行う多文化交流イベントに対する支援も行っています。

こうした中、本県では、いよいよ来年3月16日に北陸新幹線県内全線開業を迎えます。さらには、日本・中国・韓国の3か国が文化交流を通じて相互理解を目指す「東アジア文化都市」の来年の開催地として、本県が選定されたところであり、今後とも、本県の特色を活かした国際交流を進めるとともに、県民誰もが安心して暮らせる多文化共生の社会づくりに向けた取り組みを積極的に進めてまいります。